

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	歴史的町並みにおける生活の様相への訪問客のまなざしと彼らの町並み評価の関係
Title(English)	Relationship between visitors' gaze on aspects of local lives and their evaluations of a historical district
著者(和文)	直井岳人
Author(English)	Taketo Naoi
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10274号, 授与年月日:2016年6月30日, 学位の種別:課程博士, 審査員:十代田 朗,樋口 洋一郎,大佛 俊泰,斎藤 潮,中村 芳樹
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10274号, Conferred date:2016/6/30, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	直井岳人	
論文審査 審査員		氏名	職名		
	主査	十代田 朗	准教授	中村 芳樹	教授
	審査員	樋口洋一郎	教授		
		大佛 俊泰	教授		
齋藤 潮		教授			

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「歴史的町並みにおける生活の様相への訪問客のまなざしと彼らの町並み評価の関係」と題し、全7章で構成されている。

第1章「研究目的」では、研究の学術的背景として、歴史的町並みで、訪れる価値が顕著な歴史的かつ観光地的様相であるフロントとより世俗的なバックとしての様相が近接又は混在する可能性を示し、地元の生活の様相への訪問客のまなざしが生じる可能性とその影響について、訪問客の町並みに対する印象、学びと交流欲求の充足、ロイヤルティの観点から論じている。実務的背景としては、歴史的建物の内部の活用余地を残す重要伝統的建造物群保存地区制度により歴史的町並みの生活の様相に訪問客が触れる可能性があることを説明し、更に、訪問客にとっての魅力としての地元の生活の様相を重視する傾向が観光まちづくりの分野で見られることを説明している。又、研究の枠組みとしては、建築・環境心理学の人間-環境系の知見に立脚することを示し、従来人間-環境系の観光研究と比べて実際の訪問客間の差異に注目する点、従来の観光研究と比べて非日常性が弱いであろう地元の生活の様相を対象とする点、従来の観光まちづくり分野で検証されなかった、訪問客の視点からの生活の様相の意味を検証する点に本研究の独自性を示している。

第2章「歴史的町並みにおけるまなざしの変遷」では、歴史的町並みの様相に対する社会的まなざしの時系列変化を分析するため、岐阜県高山市の歴史的町並みに関する旅行雑誌記事中の顔出語とその時代区分との関係性を定量的に分析している。その結果、歴史的町並みへの社会的注目点が建築物、伝統、歴史的建物といったものから人の行動へまなざし移っていることを明らかにしている。

第3章「歴史的町並みにおける観光地空間と地元の生活空間」では、訪問客から見た歴史的町並みの特性を明らかにする為、高山市への外国人観光客を対象とした質問票調査を実施し、古い町並みを含む市内の主要な観光対象から、魅力的だと思った場所(魅力空間)と地元の生活が感じられると思った場所(地元空間)を選び、その印象を尺度上で評定させている。その結果、「魅力空間」と「地元空間」のそれぞれとして捉えられるスポットには違いがあるが、歴史的町並みが、観光空間としての特性が強いながらも生活空間としての特性も持っている空間であることを示唆している。また、「魅力空間」、「地元空間」の双方において、「古い」、「観光地的」な雰囲気が良い印象に繋がる点では共通していることがわかり、高山市の観光対象全体が「観光地空間」としての評価基準で見られていることを明らかにしている。

第4章「訪問客が感じる魅力と地元の生活の様相」では、岐阜県高山市への日本人訪問客を対象に質問票調査を実施し、歴史的町並みにおいて訪問客が具体的にまなざしを向ける様相を自由記述回答から抽出し明示している。

第5章「住民の視点から見た地元の生活の様相」では、訪問客がまなざしを向ける地元の生活の様相と、住民から見たそれが異なる可能性に鑑み、第4章で抽出した地元の生活の様相が、「どの程度観光客向けか/地元の生活をあらわしているか」を住民に尺度評定してもらい、評定値を基に様相を分類し、各様相の評定値と住民の居住地の特性の関係を検証している。その結果、訪問客がまなざしを向ける様相には、訪問客にとっての非日常性が強くない様相が含まれること、住民から見たこれらの様相には「訪問客向けの地元の生活の様相」と「訪問客向けではない地元の生活の様相」があり、訪問客向けの様相と地元の生活の様相が二項対立的に分けられないことを明らかにしている。

第6章「訪問客間のまなざしの対象の差異と町並みの評価」では、第4章と同じく、高山市への日本人訪問客を対象に質問票調査を実施し、地元の生活に当たる様相へのまなざしの訪問客間の個人差と彼らの町並みの評価との関係を検証することで、歴史的町並みの、観光地的側面、人が暮らす場としての側面に幅広くまなざしを向けることが、その訪問客の持つ、町並みの「調和」、「独自性」、「学びの機会」、「交流の機会」という面における好ましい評価と、他者への訪問の推奨に繋がる可能性を示している。

第7章「結論」では、各章の内容をまとめ、総合的な考察を行うとともに今後の課題を述べている。以上を要するに、本論文は、訪問客の印象、経験、ロイヤルティの観点から、地元の生活の様相への訪問客のまなざしの重要性を示し、人の暮らしを活かした観光振興への示唆を提供すると共に、「観光地化した地元空間」という概念を定量化し、観光地における空間計画論の枠組みに新たな視点を与えるものであり、観光計画学上および工学上貢献するところが大きい。よって本論文は博士（工学）の学位論文として十分な価値があると認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。